

大学生のキャリア形成を支援する キャリアポートフォリオの改善研究

前田 吉広*

An Improvement Study of Career Portfolio
to Support the Career Development of University Students

Yoshihiro MAEDA*

ABSTRACT

In recent years, there has been a significant gap between the student skill set required by companies and the actual abilities and skill sets of the students. In order to fill this gap, career education corresponding to each student and their diverse needs has become indispensable. In order to realize such career education, we studied the utilization of portfolios to facilitate student self-improvement. A portfolio is an effective tool for students to record their learning histories as well as the development of their values. However, in many cases the information has been preserved, yet it has not been systematically organized. A second issue is that students may not be able to self-reflect and determine based upon the information available their own view of a suitable career. In order to solve these problems, I designed a “career creation support chart” that can follow the changes and relationships of the 4-year learning history and values on one sheet. By using this chart, students can grasp their own experiences systematically and can more easily develop their carrier view.

キーワード：キャリア教育、キャリア形成支援、ポートフォリオ、振り返り

1. はじめに

社会の変化が激しく、将来への見通しが不透明な近年において、大学生は自らの専門性を高めることに加え、その専門性や自身の個性を社会でどのように活かし、将来に向けてキャリアをどう構築していくのか考え、主体的に行動していく力を養うことが求められている。しかし一方で、日本は50%以上の若者が4年制以上の高等教育機関に進学するユニバーサル段階(マーチン・トロウ)に突入し、進学に対する目的意識の低い大学生も増加している。周りの友人が進学するから自身も大学に行く、両親が勧めるから大学進学を希望する、といった価値観で入学した学生の多くは、自らが所属する学部・学科で身につけることが求められる専門性の向上はもちろん、大学卒業後のキャリアについての意識も高くない。

このように、社会が求める若者像と大学生の実態との間には大きなギャップが存在し、それらの接点となる就職時において、雇用のミスマッチや3年以内の早期離職、無断欠勤など、前述のギャップ

*大学教育センター助教

が原因の一つとも考えられる多くの問題が頻出している。こうした問題を解決するために、文部科学省は大学の教育課程に職業指導を盛り込むことを2011年度より義務化し（中央教育審議会、2010）¹、2012年には産業界のニーズに対応した人材育成に取り組む大学に対して補助金の支援をおこなうなど、キャリア教育の積極的推進を求めている。しかし、多様な価値観を持つ現代の学生一人ひとりに対し、従来の講義型一斉授業を通じて適切なキャリア観を育成することは容易ではない。

本研究では、このような背景のもと、学生一人ひとりの価値観に基づいた大学でのキャリア教育を支援する手法の一つとして、近年注目を集めているポートフォリオの活用と改善案について考察する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大学におけるキャリア教育に役立つ有用なポートフォリオのあり方を導出することである。キャリア教育は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」（中央教育審議会、2011）²と定義され、社会人・職業人としての自立を目指した教育活動をおこなうための理念と方向性を示したものとされる。そのための基本的な方向性として、「幼児期の教育から高等教育まで体系的にキャリア教育を進めること。その中心として、基礎的・汎用的能力を確実に育成するとともに、社会・職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を充実すること。」とある。

ポートフォリオという言葉に対する解釈は様々あるが、本論ではこれまでの学びの過程で積み重ねられてきた学生の学修成果物（レポート、論文、課題など）を保存し、いつでも振り返ることができるものを指すものとする。近年ではLMS（ラーニングマネジメントシステム）の導入によるeポートフォリオの普及により、学修成果物が半自動的に保存され、蓄積されるものも存在する。このポートフォリオからは、学生が授業を通じて学修した内容だけでなく、個々人の考え方や価値観といった情報も読み取ることができる。この特徴は、学生が将来のキャリアを模索する上で、自身の過去を正確に振り返るきっかけを作り出す素材となり、かつ自身の考え方の変化や成長を客観的に把握できるツールともなり得るところにある。多様な価値観を持つ若者が増える中、一人ひとりの価値観を尊重したキャリア教育を提供するには、このような特徴を持つポートフォリオの積極的な活用は効果的ではないかと考える。

しかし、大学生生活を通じて非体系的に記録・保管された多様な学修成果物の集合体から、自らのキャリア観の形成につながる要素を選定し導き出すことは、それを活用しようとする学生個人の能力に大きく委ねられる。どのような要素が自身のキャリア観を導き出す上で有効な情報なのか、また導き出された異なる要素を一つのキャリア観としてどのように統合すれば良いのかといった、深い考察が求められるため、自らの力だけで導き出すことが困難な学生も少なからず存在するだろう。もちろん、キャリアカウンセリング資格などを保有する専門家や教職員がサポートをおこなうことで、学生の考察を支援することもできるが、介在者によるバイアスが加わる可能性や、現実的な問題として、個別対応が可能な人的資源の制限もある。キャリア観を養うために必要な要素の抽出や、その活用についての全てを学生一人ひとりの能力に委ねるのではなく、大学生生活を通じて積み重ねてきたそれらの情報を、誰もが上手に活用することのできる仕組みを提供する必要があるのではないだろうか。上述のキャリア教育の基本的な方向性（中央教育審議会、2011）³においても示されているように、キャリア形成につながる学生固有の体験を体系的に整理する必要がある。そのためには、蓄積された多様な情報・学習成果物を体系的に整理することで、学生のキャリア形成を促す思考につなげる仕組みをポートフォリオに組み込む必要があると考えられる。

3. 先行研究の知見

本章では、現状のキャリア教育におけるポートフォリオの活用事例と課題について言及する。学修履歴を保存し、振り返りをおこなうことで学びを深めることができるポートフォリオは、ICTの発達と普及によって導入が容易になったこともあり、近年高い関心を集めている。既にキャリア教育の分野においてもポートフォリオの活用は試みられている（新目ほか、2013、および吉田、阿部、2010）

4. ポートフォリオは学習成果物の保管に加え、学習目標や習得スキルなどといった利用者自身の価値観や考えについても記録できるようになっており、大学生活を通じて得られる様々な知識や経験を保存することができるようになっている。例えば、大学におけるeポートフォリオとしての利用率も高い、オープンソースeポートフォリオ「Mahara (マハラ)⁵」では、大きく分類して5つの基本的な情報を登録することができるようになっている(図表1)(村山、2010)⁶。

表1 Mahara のメニュー項目と登録内容の例

メニュー	登録内容
プロフィール(基本情報)	学籍番号、氏名、連絡先 他
マイレジュメ(履歴書)	学歴、取得資格、賞罰 他
マイゴール(目標)	個人の目標、学習に関する目標、就職に関する目標
マイスキル(知識・技能)	個人のスキル、学習に関するスキル、職業に関するスキル
マイファイル(電子ファイル)	学修成果物(レポート、論文等)の電子ファイル保管

(出所:「村山光博『就職支援活動におけるキャリアポートフォリオの活用』、長岡大学生涯学習センター『生涯学習研究年報』第4号、2010年図表4より整理作成)

ポートフォリオを用いてこれらの情報を必要に応じていつでも利用できるように一元管理することは、後に自身のキャリアを考える時に、思い出すという労力を省き、記憶を補完するものとして有用であるといえる。忘れられた過去の記憶を掘り起こし、その時々での思考や感情などを時間の流れに沿って俯瞰することで、目に見えない自身の変化や成長を客観的に把握することができる。ポートフォリオには、そのような気づきを数多く浮き彫りにするための様々な情報が記録されることが望ましい。

キャリア教育におけるポートフォリオを有効活用するために、最も重要なポイントは学生に対する動機付けであると述べている(村山、2010)⁷。村山は、学生が自身の学習履歴や活動履歴を蓄積する必要性を理解し、自発的にデータの更新を継続しておこなうことが必要だと説いている。小川(2015)⁸は、ポートフォリオは、利用にあたって明確な目的を設定し、ポートフォリオサイクルを回す必要があり、そのサイクルとして5つのポイントを述べている。ポートフォリオを導入しただけでは、ただ情報を蓄積するだけになってしまい、学生のキャリア観の醸成につながるメタ認知を促すことはできない。

表2 ポートフォリオサイクル

1	目的・ゴールの設定
2	データ収集、成果物などの蓄積
3	振り返り
4	評価・公開する相手の選択、評価・公開のためのページの作成・デザイン
5	自己評価・相互評価

2～5を繰り返しおこなうことで、サイクルが活性化する。

(出所:小川賀代「キャリア支援におけるeポートフォリオ活用—持続可能なシステムに向けて—」教育システム情報学会誌 Vol.32 No.1, p27-36, 2015、128頁より整理作成)

また、小川(2015)⁹は、ポートフォリオサイクルにおける要を「振り返り」として挙げており、そこには指導経験豊かな教員やメンターが介在することで、ポートフォリオサイクルが充実することを述べているが、同時にそのような人的支援が難しい大学にとっては、過去におこなわれてきたベテラン教員およびメンターによる指導履歴を蓄積し、現在の学生に対して活用することで効率的な指導を

おこなうなど、工夫の必要性を説いている。その他にもキャリア教育におけるポートフォリオの課題として、全学的に導入・活用に関する共通理解がとれていないことや、技術的なサポート体制が整っていないといった問題も存在するが、本論ではキャリア教育における課題という部分に絞って取り扱うことにし、それらは取り上げないこととする。

これらの先行研究より、現在のキャリア教育におけるポートフォリオが抱える課題を分類すると、以下の3つに集約することができる。1つ目は、キャリア形成に関係する可能性のある情報を「できる限り多く収集する」ことが目的になってしまっており、集まった情報の活用方法まで具体的に考えられていないこと。2つ目は、記録されている情報同士の関係性や、大学生生活を通じての目標・興味・関心の変遷などはポートフォリオに記載されておらず、その部分に対する情報が不足していること。3つ目は、蓄積された情報をどのように活用すれば将来のキャリアについて考えることができるのかについて具体的な示唆がなく、指導経験豊富な教員やメンターの支援が得られなければ、解釈や活用についてのほぼ全てが学生の能力に委ねられていることである。これらの3つの課題について、本論では次のような解決方法を提示することで、学生のキャリア形成を支援するポートフォリオのあり方を模索する。

4. キャリア形成を支援するポートフォリオのあり方

本章では、先行研究より得られたキャリア教育における現行のポートフォリオの課題を解決する仕様について言及し、更にそれに基づいたポートフォリオのフォーマットを試作する。

まず、1つ目の課題である「キャリア形成を促す有効な活用方法が未検討のまま、できる限り多くの学習成果物を収集すること」については、「キャリア形成の支援に必要な情報を取捨選択し、収集すること」へと発想を転換することが求められる。将来のキャリアを考えるための情報がどれだけ多く存在しても、それらが活用されなければ存在価値は低い。それどころか、学習者にとって扱いきれない大量の情報は、導き出したい情報の折出を妨げる要因にもなり得る。学習成果物を蓄積することに対する動機付けを促すためにも、これらの情報が自身のキャリア形成にどう結びつくのか、収集する段階から学生が理解できるようにする必要がある。また、事前にどのような情報がキャリア形成に有意なのかが示されていれば、必要な情報を効率的に収集することもできるだろう。

2つ目の課題「記録された様々な学習成果物の関係性や変化まで読み取れないこと」については、「記録情報の関係性や変化についての考察を追加すること」が求められる。学生が自身のキャリアについて考える時、これまでどのような事柄に取り組んできたか、それらにどの程度の努力や工夫をおこなってきたか、といったことに対する考察も必要だが、それと同等もしくはそれ以上に、それらの事柄に取り組もうと思ったきっかけ（感情や行動に変化を与えた要因）や、異なる複数の取り組みに共通する価値観（事柄をつなげる関係性）について理解することも、自身のキャリア観を養う上で大きく影響を与える要因の一つだと考える。これらの情報は、一定数量の学習成果物が収集された後、それらを俯瞰して振り返ることで追加が可能になる情報であるため、他の学習成果物と同様の手順で収集できるものではない。しかし、このような情報を追加することを予め想定し、学習成果物の収集をおこなうことが必要だと考える。

最後に、3つ目の課題「蓄積された情報の解釈や活用が、学生の能力に委ねられていること」については、「キャリア形成につながる思考の手順を、わかりやすく明確に示唆すること」が求められる。大学に入学する学生の目的が多様化し、自身のキャリアに対する意欲の低い学生も存在する近年の大学において、キャリアポートフォリオの積極的な活用を多くの学生に対して促すには、考えるべきこと、取り組むべきことがわかりやすく明確に示唆されていることが望ましい。

以上のような3つの課題に対するそれぞれの解決策を、具体的なキャリアポートフォリオの仕様として実用可能なものにするべく、以下のようなフォーマット案（図1）として落とし込んだ。

従来のキャリアポートフォリオに対し、主に改善を加えた部分は以下の4点である。学生生活の4年間を通じて、常に自身の目指す目標と求められている力を意識することができるように、上段に目標を記入する枠を設けた。こうすることで、振り返りのタイミングで常に「ありたい姿」と「自らの

現状」を比較して捉えることができ、各時点における思考と行動の確認・修正ができるようになると考えられる。キャリア観の形成を促す気づきとなる、時間軸に沿った意識や行動の変化・共通点を記入する枠を設け、それぞれの枠を矢印で結ぶことで、取り組むべき手順や記入すべき情報の流れ、関係性を表した。また、記入された内容が視覚的にも気づきにつながるように、それぞれの内容が全体に占める割合を数値化・グラフ化することで、違いが浮き彫りになる工夫を加え、気づきにつながる問いが自然と生まれるように設計している。大学生活全体を俯瞰して見ることによる気づきを促すために、情報量よりも一覧性を重視し、1枚の用紙内で収まるようにデザインした。このように記入すべき要素を1枚に収めることで、情報を入力した後の活用イメージが具体的に想定できる上、取り組みに際して簡易な印象を与えるため、ポートフォリオの制作意欲の向上につながると思われる。

5. まとめ（課題）と今後の展望

大学でのキャリア教育におけるポートフォリオの役割は、単にキャリアに対する考えや学習成果物を保存し管理するだけでなく、学生に自身のキャリアを積極的に考えさせるきっかけを与え、行動と振り返りを促し、キャリア観を深めるものにまでつなげるものであることが望ましい。でなければ、考えや想いを整理し、記録した瞬間だけの表層的な納得感、満足感が得られるだけで、保存された情報の多くは学生のキャリア形成に活用されることなく、忘れ去られてしまうのではないだろうか。そして、それでは大学におけるキャリア教育が目指す本質的な「人間力」の育成につながらない。学生が自分自身としっかりと向き合い、自分の軸を確かなものへと育てていくことができる支援をおこなっていくためにも、キャリアポートフォリオの制作メリットを学生が十分に理解でき、主体的にその制作をおこなっていきけるような仕組みづくりが必要不可欠である。本論では、従来のキャリアポートフォリオのフォーマットを改善することで、その解となる一つの方向性を示すことを試みた。

しかしながら、本研究ではキャリアポートフォリオの改善フォーマット案を制作するまでしか至っておらず、本改善フォーマット案の導入によるキャリア観の育成効果の検証や、検証結果を基にしたフォーマット案の更なる改善と充実については今後の課題と考えられる。この課題については、次年度のキャリア教育科目の中で試験的に導入することにより、詳しく分析していきたい。

(本研究は、平成28年度福山大学教育振興助成金による取り組み成果の一部である。)

【注】

- 1) 中央教育審議会「大学設置基準及び短期大学設置基準の改正について（答申）」
2010年2月1日
- 2) 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf
2011年1月31日
- 3) 同上
- 4) 新目真紀、長沼将一、小林万里乃、小松大、玉木欽也「キャリア教育におけるeポートフォリオの活用方法に関する考察」、情報処理学会研究報告, 2013 および
吉田咲子、阿部一晴「キャリアデザイン講座Iにおけるeポートフォリオ活用」
京都光華女子大学研究紀要, p273-301, 2010
- 5) Mahara サイト <http://mahara.org> および
Mahara 日本語ドキュメント <http://wiki.mahara.org/wiki/Mahara> 日本語ドキュメント
- 6) 村山光博「就職支援活動におけるキャリアポートフォリオの活用」、長岡大学生涯学習センター『生涯学習研究年報』第4号, 2010

- 7) 同上
- 8) 小川賀代「キャリア支援におけるeポートフォリオ活用ー持続可能なシステムに向けてー」
教育システム情報学会誌 Vol.32 No.1, p27-36, 2015
- 9) 同上

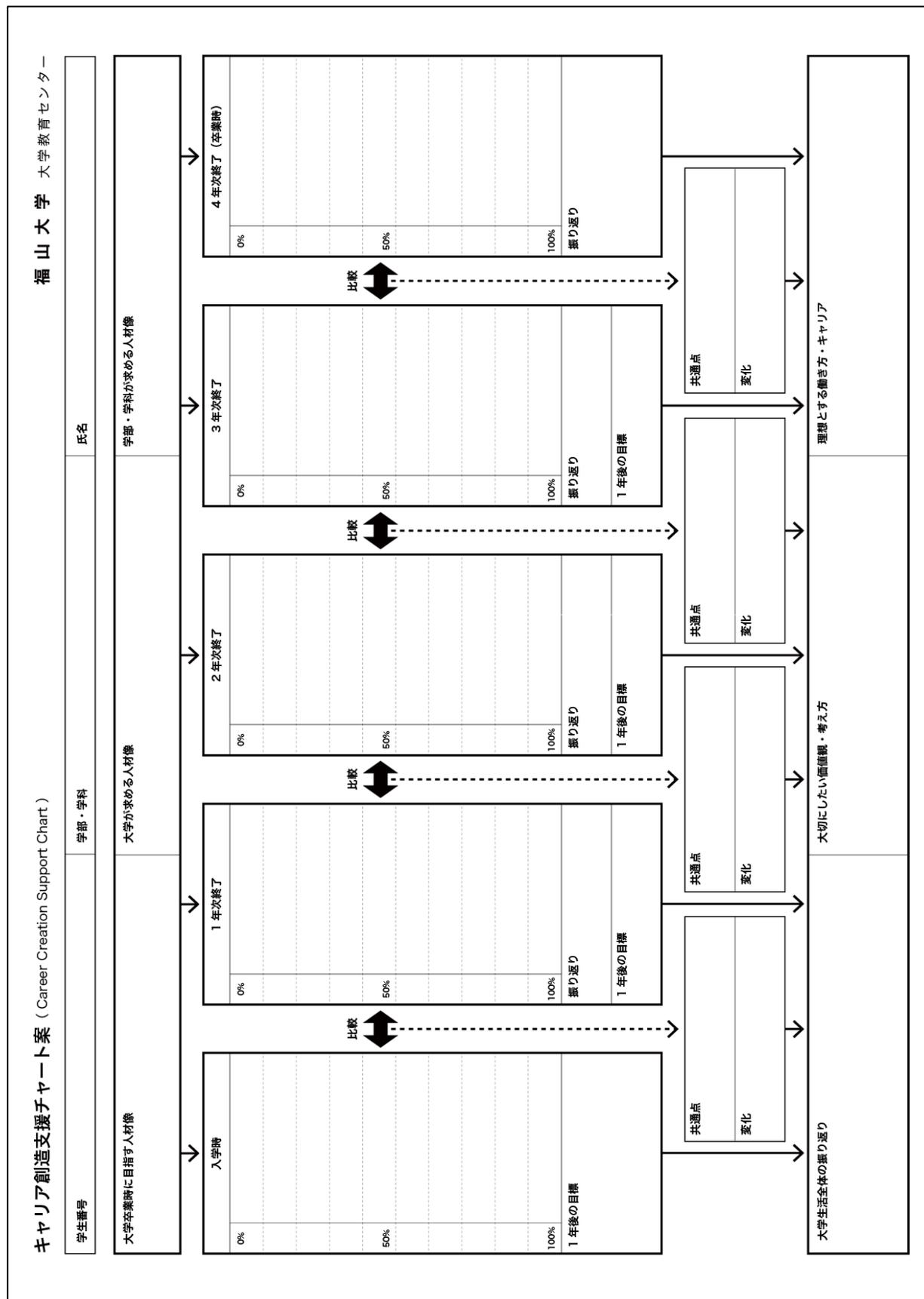


図1：キャリアポートフォリオ 改善フォーマット案

